

続

木曾・楢川村誌

／

目次

# 村民から塩尻市民へ 続 木曾・榑川村誌

口 絵

刊行のことは………塩尻市長 小口 利幸

例 言

## 序 章 『続 木曾・榑川村誌』編さんの目的と概要……………一

第一節 村の歴史的遺産は平成期の村民協働のステージ……………三

一 『木曾・榑川村誌』発刊とその後……………三

歴史的遺産を現代に活かす／町並み創造や観光・産業に歴史遺産を活かす

二 塩尻市合併の要因と榑川地区の個性を磨く鍵……………七

村政・広域行政の計画樹立で村の未来を探る／塩尻市に引きついで「中山道街道

文化」

第二節 平成期における村域・村民の特色……………二

一 村域の自然と生活の場としての特色―木曾林業の消失……………二

二	村財政自主財源の減少と閉村への軌跡……………	一六
	標準財政規模・財政力指数が低い過疎村／塩尻市民となる榑川村民への期待	
	緑豊かな分水嶺のある村／幹線交通路が縦貫する地区／個性の異なる榑川・平沢・奈良井の三集落／過疎化の進行と高齢者の増大	
第一章	榑川村政の展開と塩尻市との合併……………	二二
第二節	村政の展開……………	二三
一	平成期の村政……………	二三
	平成期の村政首脳部／助役と収入役／村役場組織を変える	
二	百瀬村政から田中村政へ……………	三三
	第三期百瀬村政と第二次総合計画／あいつぐ大型建設事業／第四期百瀬村政と後期基本計画／過疎地域指定と活性化計画／第五期百瀬村政と第二次行政改革大綱／美しい山里文化村の共創／田中村長の誕生と合併問題／田中村政の新事業と公共料金の値上げ	
三	村議会の議員選挙と運営……………	四七
	村議会の新たな動き／二十一世紀対策特別委員会の報告／第一四回議員選挙とバランスシート作成／最後の議員選挙と塩尻市との合併／住民投票条例制定の請求	
四	木曾広域連合・木曾広域連合議会……………	五七



木曾郡の一部事務組合／新木曾地域振興構想／木曾広域連合の発足／木曾広域連合広域計画

五 塩尻市域などとの広域行政…………… 六六

松塩筑木曾老人福祉施設組合／サニーヒルきそ、デイサービスセンター・在宅介護支援センターそほく／村諸団体と塩尻市との交流

六 県政・国政と栖川村民…………… 七〇

県知事選挙と村民／県議会議員選挙と村民／衆議院議員選挙と村民／参議院議員選挙と村民／奈良井ダムと権兵衛トンネル

七 国際交流・友好都市交流…………… 七六

日中貿易と日中友好／ミャンマーとの交流事業／静岡県袋井市との姉妹提携

第二節 村財政・広域財政の展開と村民負担…………… 八四

一 村財政運営の方針と特色…………… 八四

村長の財政運営の基本的考え方／百瀬村政下の財政運営／田中村政下の財政運営

二 平成期の村一般会計…………… 八八

村財政歳入額の増大／村財政力指数の推移／村財政歳入費目の構成／村歳入の村税／村への地方交付税／過疎対策のための村債／村への国と県の支出金／村歳出総額の推移／目的別歳出費目決算の推移／費目別比率が高い総務費／土木費が総務費につぐ比率／公債費も高い比率がつづく／民生費にも多くの支出／漆器業振興が中心の商工費

三	平成期の村特別会計	一〇六
	村特別会計の種類と内容	
四	木曾広域連合と村負担	一〇九
	木曾広域連合と村の負担金	
第三節	塩尻市との合併	一一三
一	平成の大合併と村・村民の意向	一一三
	国・県による合併促進／木曾郡内の合併の動き／百瀬村政と合併問題／田中村政と合併問題／村議会と合併問題／第一回住民アンケート／第二回住民アンケート	
二	塩尻市・榑川村任意合併協議会と塩尻市・榑川村合併ビジョン策定委員会	一一二
	村の合併協議申し入れ／任意合併協議会の発足／任意合併協議会の活動／合併ビジョン策定委員会の活動／合併ビジョンの構成と内容	
三	榑川村まちづくり審議会までの動き	一一九
	市町村合併を考える村民の集い／まちづくり審議会の組織／六つの専門委員会と検討内容／まちづくり審議会の答申	
四	塩尻市・榑川村法定合併協議会	一二四
	法定協議会の発足／議会議員の定数等検討委員会／合併協定書の調印式／合併協定書の内容	
五	塩尻市榑川地域審議会	一二九



地域審議会の設置／地域審議会の活動

六 塩尻市・榑川村の合併……………一四一

市・村議会の合併関連議案可決と県への申請／新塩尻市の官報告示／合併前の市民と村民の交流／「ピレッジならかわ」の設立／村民が市民となる準備

七 閉村と塩尻市榑川支所の開設……………一四四

榑川村閉村式／平成十七年三月三十一日／塩尻市榑川支所の開設／支所の組織と業務／塩尻市議会議員の増員選挙

第二章 榑川村の人口と世帯……………一五一

第一節 人口と世帯数の増減……………一五三

一 高度経済成長期前後の人口と世帯数……………一五三

高度経済成長期以前の村の人口／高度成長期以降の人口減少／高度成長期以後の世帯数

二 人口・世帯数の増減にみる地域的特性……………一五八

人口の総体的変化と地域的特性／人口が激減した川入の小集落／高齢者のみの羽淵・萱ヶ平／もう一つの人口減少地区贄川北部の小集落／村内在住の外国人

三 人口の自然的増減と社会的増減……………一六五

人口の自然的増減／激減する出生数／死亡数の増加と死因の変化／転入・転出による

第二節 人口構成にみられる変化……………一七〇

一 性別構成の変化……………一七〇

性別にみた人口／同一世代の年齢進行による男女比

二 年齢別人口構成とその変化……………一七四

年齢別人口構成の総体的変化／同一世代集団人口の年齢進行による変化／人口ピラミ

ッドは釣鐘型・つぼ型に

第三節 家族と世帯構成の変化……………一八一

一 世帯規模の縮小……………一八一

昭和五十年まで大規模家族が減少／世帯規模の縮小と単独世帯の増加

二 核家族化の進行と世帯類型の変化……………一八五

世帯人数の減少と核家族化／世帯類型の変化

三 少子化と高齢化の進行……………一九一

少子化の進行／晩婚化と子どもをもたない夫婦／少子化対策と課題／高齢化の進行と

激増する高齢者世帯／高齢化対策と健康管理

第四節 村民の移動……………二〇二

一 就業・就学にとまなう村民の動き……………二〇二

就業人口の増減／村民の就業地／村内への就業者／高校生の通学先とその変化／昼間人口の減少／村外通勤・通学者の年齢

二 転入・転出にとまなう村民の移動……………二〇〇

転入・転出による人口変化／村民の移動範囲／転出した人々の居住地／転入・転出者の年齢にみる特色／転入・転出の多い月

第五節 産業別人口……………二二二

一 村内就業人口の増減……………二二三

有業人口の増減と高齢有業者の増加／高い村内就業率と自宅就業率／就業者の性別構成／就業者の年齢構成と男女差

二 産業別人口構成の変化……………二二八

村の産業別人口構成は「まち」型／第一次産業の農業・林業人口／県内有数の高さの第二次産業人口率／第三次産業の商業・サービス業人口

三 女性の職場進出……………二二五

自宅就業から職場への進出／不安定な職場への進出



## 第三章 檜川村の産業・経済……………三一九

### 第一節 村の産業構造と就業構造……………二四一

#### 一 就業からみた村の産業構造……………二四一

村内雇用の場の狭さと村外就業／サービス業と卸・小売り・飲食業の伸び／伸びた市部の四本柱と檜川村の三本柱／村民の雇用をささえた部門／村民の雇用先は木曾郡内に存在

#### 二 村の産業振興策……………二四八

「伝産法」と伝統工芸士／漆器業者・村行政の懇談と村振興策／地場産業振興センターを村に誘致／地場産センター支援金の増大と支援再検討策／村議会による地場産センター経営改善策の諸提言／実現困難だった職と住の分離策／長野冬季五輪と木曾塗り入賞メダル／木曾漆器技術による文化財修復事業／ジャパン（漆器）・サミット二回目開催／村漆器振興課設置とハブ・ファクトリー構想

#### 三 村商工会の創立から閉会まで……………二六三

村商工会の四四年の歴史に幕／商業・工業二部会と婦人部の設置／商業祭の開催と多彩な活動／商工会会員の推移

#### 四 国・県・広域行政（広域連合）と結んだ産業振興策……………二六七

木曾広域行政の進展／木曾広域連合の発足と地場産業育成事業／木曾広域による国道一九号対策

次 第二節 漆器業・地場産業……………二七一

目 漆器業……………二七一

村製造業は漆器業／木曾漆器工業協同組合の融資と共同事業／村工業の量的頂点は昭和末期／従業者数三人以下が重要な漆器業／村の工業を左右する漆器製造業／漆器製造の原料生漆の確保／かつて多かつた木材・木製品業／注目される轆轤の分野／ハイテク企業の動きと撤退／従業者三〇人以上の事業所減と製品の変化／平沢の工業従業者にみる年齢構成／従業者減少でも健闘している有力業者／小規模業者の従業者数の変化／漆器業者の多様な営業形態／漆器文化の創造的展開／木曾漆器の実態調査／平成十三年の木曾漆器

二 漆を通じたミヤンマー交流……………二九七

ミヤンマー調査団の派遣と漆器技術の交流／初の村民海外研修派遣事業／ミヤンマー漆器技術者村内研修

第三節 村の農業……………三〇一

一 村農業の特徴……………三〇一

少ない農家数わずかな耕地／作付け耕地と水田の狭さ／農業機械の保有も少ない

二 村の農業・農家……………三〇四

国の定義とはずれた農業・農家／村農家の実態／農家人口と農業従事者／経営耕地と栽培作物／木曾郡と村の農作物・家畜

三 農業をとりまく状況の変化……………三〇八



基盤整備の遅れ／観光と連携した農業振興策／ならかわ市場を地場産センターに併置  
／農作物に猿害の発生

第四節 村の林業……………三二一

一 国有林……………三二一

村の国有林と奈良井営林署／営林署の人員削減と流域管理／収穫期到来の官行造林地

二 林道整備と治山・防災……………三三三

木曾谷地域管理経営計画に要望提出／村議会の国有林林道の視察／水源地域の連帯へ

三 奈良井営林署の貯木場と営林署跡地の活用……………三三六

奈良井営林署の貯木場と跡地の取得／木曾檜大橋と村営住宅設置

四 村有林の基盤整備と林道新設……………三三七

広域林道整備の計画と工事実施

五 水源地域の保全要求と森林交付税創設運動……………三三八

水源地域の保全を村が要望／森林交付税創設の運動／塩尻市に提携を呼びかけ

六 私有林の林業経営と森林組合……………三三二

「農家林家」と森林組合／きのご類の栽培／林業経営体と経営拡大／森林作業と作業  
者／森林組合の広域化



第五節 村の商業……………三三五

一 統計からみた村の商業……………三三五

従業者数がふえた小売り業／従業員の多い村の漆器卸商／小売り業で伸びた土産物の商品／小売り商の法人・個人別動き

二 村の商店と村民の買い物行動……………三三九

地元滞留率の小さい村民買い物行動／塩尻市にある独自商圈／村民が買う場所と店舗の種類

第六節 村の金融機関……………三三二

一 商工信用組合・相互銀行・銀行……………三三二

商工信用組合から銀行へ／八十二銀行平沢出張所の開設／長野相互銀行への転換／長野銀行への発展／塩尻市合併と業務の変更

二 漆器業と金融機関……………三三六

長野銀行の融資と漆器業／農業協同組合を通じた販売／漆器業者の販売先や需要の容

第七節 村の観光業・サービス業……………三三九

一 入り込み客数の変化と集中の時期……………三三九

観光客などの宿泊施設／平成六年ころからふえた客数／ふえる日帰り客ふえない宿泊

客／夏季に多い奈良井の入り込み客／平沢の入り客数と時期  
二 村営保養施設ならい荘の民営化……………三三三

コンヴェンション機能とならい荘／ならい荘と村観光施策／平沢の町並みを観光資源に

三 広域行政・広域連合による観光基盤整備……………三四六

観光協会が村観光基盤整備を企画／木曾広域行政による公共サインの設置／木曾路イメージアップ構想と栖川地区の連携

## 第四章 村民の生活……………三五一

第一節 交通と通信……………三五三

一 交通機関の変化……………三五三

鉄道交通の整備と急速な衰退／道路整備の進行と国道の問題点／バスから自家用車へ

二 通勤・通学交通事情の変化と公共輸送機関の衰退……………三五八

汽車通勤からマイカー通勤へ／公共輸送機関の衰退と交通弱者対策

三 交通事故の増加と安全対策……………三六五

自動車交通量の増加と大型貨物車の通行／多発する交通事故と村の交通安全対策

四 権兵衛トンネルの開通と交流圏の拡大……………三六九

権兵衛トンネルの開通／トンネル開通と伊那谷との交流／トンネル開通と観光・経済効果	三七五
五 通信体系の変化と村民の生活	三九五
電話の普及から携帯電話まで／郵便利用の減少と多様な伝達法／インターネットと経済活動の変化	三九五
第二節 消防・防災活動	三八二
一 交通体系・水系に規定された生活環境	三八二
鉄道・国道による生活の広域化／奈良井川水源としての生活環境	三八二
二 消防団組織と村財政支出	三八四
村消防団から広域消防へ／村消防団の組織と団員の減少／村消防団の年間の活動／村消防団員減少と消防体制の再検討	三八四
三 日常的消防訓練と危機管理・総合防災訓練	三八九
村消防団組織と日常訓練向上策／村と木曾広域による総合防災訓練	三八九
第三節 水道と下水道	三九二
一 村民と水	三九二
源流の村の自覚	三九二
二 水道の整備	三九四



榎川簡易水道の拡張／水道料金の改定

三 下水道の布設……………三九六

合併浄化槽の普及／五〇億円三〇年の下水道事業／下水道事業の推進

四 合併後の水道と下水道……………四〇四

二つの簡易水道の統合／塩尻市に統合された下水道

第四節 資源循環型社会をめざした廃品回収・リサイクル……………四〇七

一 蘇北地区環境衛生組合から木曾北部環境衛生組合へ……………四〇七

三か村から七町村による木曾広域ゴミ処理／村長の嘆きと村民意識向上

二 ゴミ減量化促進対策事業とリサイクル回収……………四〇九

ゴミ収集有料化とゴミゼロ運動／リサイクル品分別と消費者・事業者義務

三 木曾広域行政による海外研修とゴミの分別回収……………四一三

ヨーロッパ先進地の環境対策研修／広域・村で分別回収開始

四 ゴミ処理と木曾広域連合・塩尻市……………四一四

塩尻市合併後のゴミ処理策／ISO 14001の認証を取得／水源地域環境保全基金

条例の制定

五 まちづくり審議会住民専門部会の活動……………四一八

住民環境専門部会国道ゴミ収集活動／環境としての国道一九号線／新市将来構想とN

## 第五章 榑川村の教育と文化……………四三三

### 第一節 平成期の教育・文化行政財政の特色……………四二五

#### 一 教育・文化行政の展開……………四二五

教育委員会と教育・文化行政組織の変化／小学校校舎の改築／村誌の編さんと刊行／  
文化財保護と町並み保存

#### 二 教育・文化財政の特色……………四二九

教育・文化関係経費の内訳／教育・文化財政の中心的支出

### 第二節 保育園・学校と子どもたち……………四三二

#### 一 保育園……………四三二

費川・榑川両保育園児の減少／榑川・費川両保育園の改築と統合問題

#### 二 小学校の校舎改築とプールなど施設の整備……………四三四

義務教育施設整備審議会の答申／榑川小学校の校舎改築／費川小学校の校舎改築／榑  
川・費川両小学校のプール建設／学校給食へ漆食器を導入

#### 三 小・中学校の教育とPTA活動など……………四四一



費川小学校の児童減と運営の工夫／榎川小学校の児童減と産業教育の進展／榎川中学校の生徒急減と自主活動の展開	四四九
子どもたちの生活	四四九
村民生活実態調査の実施／生活リズムの改善取組	四四九
五 塩尻市との合併と保育園・小学校の統合問題	四五二
村議会・まちづくり審議会の保育園・小学校統合論議／保育園と小学校の統合問題を検討した会議の結論／教育委員会の統合問題検討／保育園と小学校は統合の方向へ／木曾榎川小学校の開校と旧費川小学校校舎の貸与	四五二
第三節 社会教育と生涯学習	四五八
一 村の社会教育計画策定と公民館活動	四五八
社会教育計画の策定／村公民館の事業計画／村公民館の研究集会／榎川セミナーから榎川自由大学へ／世代を超えた公民館のつどい／どんぐり塾の盛況／村民の塩尻市めぐりと市民との交流	四五八
二 社会教育指導員の配置と青少年・婦人対策	四六七
社会教育指導員の配置／婦人連絡会の結成／女性団体連絡会の活動／スポーツ少年団の育成／スポーツ少年団弓道部の活躍／袋井市との交流とスポーツ少年団／木曾北部三か村の交流キャンプ	四六七
三 榎川村図書館の活動	四七三
木曾郡内唯一の公立独立図書館／図書館利用者の減少と運営改善	四七三



四	村文化施設の充実……………	四七六
	特色ある四つの村文化施設	
五	村の社会体育振興……………	四七九
	村の社会体育関係事業／国際卓球博物館構想とその後／「すばーく楢川」の完成／楢川萩村杯オープン卓球大会の開催／村体育施設の利用状況	
六	人権モデル地区指定と人権擁護条例の制定……………	四八五
	「同和教育シリーズ」の公民館報連載／人権モデル地区に指定／村人権擁護条例の制定	
七	『木曾・楢川村誌』の編さんと刊行……………	四八八
	村誌編さんのはじまり／「村誌編さんだより」の『広報ならかわ』連載／楢川ブックレットの刊行／『木曾・楢川村誌』の刊行	
第四節	村の文化財と町並み保存……………	四九三
一	平成期の文化財調査と指定文化財……………	四九三
	木曾漆器の保存と調査／萱ヶ平番所遺構調査と発掘／贄川加納屋深澤家住宅調査／奈良井徳利屋原家住宅調査／平成期の指定文化財	
二	奈良井重要伝統的建造物群保存地区整備事業……………	四九八
	昭和期の整備事業の展開と課題／平成期の修理と修景事業の展開	
三	木曾平沢重要伝統的建造物群保存地区の選定に向けて……………	五〇一

町並み保存推進室の開設と活動／平沢町並み保存推進委員会の活動／平沢町並み保存調査と調査結果の概要／塩尻市合併と国へ選定申請  
四 中山道街道文化等総合整備計画の策定……………五〇五  
中山道街道文化の位置づけ／全体整備計画と地区別整備計画

平成期榑川村年表……………(1)

編さん・執筆の分担

編さん・執筆委員名簿

あとがき

表紙 木曾平沢の町並み

権兵衛峠のジャンボカラマツ